

1. 地区別防災カルテ作成の目的

長野市は、これまで台風や梅雨前線による豪雨時に河川の氾濫や土砂災害がたびたび発生しています。そのため、防災・減災の取り組みを充実させることが必要不可欠です。

地区別防災カルテは、災害時に地域が、家族が、個人が、どのように行動をすればよいか、また、災害発生前にどのような備えをしておけばよいか、を考えるために活用する資料です。

自然災害にはどのようなものがある？

日本は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、外国に比べて台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などの自然災害が発生しやすい国土です。

防災カルテで取り上げる自然災害は、下記の3種類です。

- 地震：いつ、どこで起きるか分からない災害です。強い揺れで建物が倒れたり、土砂崩れや液状化などが起きることがあります。
- 土砂災害：日本は全体の約70%が山地・丘陵地で、土砂災害が発生しやすい地形です。主に「土石流」、「がけ崩れ」、「地すべり」の3つに分類されます。
- 洪水：川の堤防が切れたり溢れたりして生じる「外水氾濫」と、大量の雨に対して排水機能が追い付かずに、処理しきれない雨水で土地や建物が水に浸かってしまう「内水氾濫」があります。内水氾濫は市街地などでも発生します。

地区別防災カルテとは？

病院や診療所で診察を受けるとき、医師はカルテに患者の病状や処置、経過等を記録します。患者の病状を地区の災害危険性、処置や経過を避難訓練や防災施設の整備ととらえ、防災に関する情報を記録したものが「地区別防災カルテ」になります。

地区別防災カルテには、長野市防災マップには載っていない地震等の被害想定結果も掲載しています。地区ごとに被害の特徴を把握して、防災対策に役立てましょう。

2. 様式について

地区別防災カルテは次の3種類の様式で構成されます。

□様式1

「地区概況」

- ・基本情報（人口、世帯数等）
- ・地域の取り組み ※自由記入欄
- ・防災関連施設（社会福祉施設等）
- ・防災課題
- ・避難場所、避難所

□様式2

「防災アセスメント調査」

- ・地震被害予測結果（建物被害、火災被害、人的被害等）
- ・浸水想定区域
- ・土砂災害危険箇所
- ・土砂災害警戒区域

□様式3

「防災関連施設位置図」

- ・避難所、避難場所
- ・防災備蓄倉庫
- ・応急救護所設置施設
- ・社会福祉施設
- ・防災行政無線

3. 地区別防災カルテの使い方

【自治会等で利用する場合】

災害発生前

- ①地域の危険箇所を把握
- ②災害の危険がある地域住民への啓発強化
- ③避難時の支援や避難方法・避難時期の確認
- ④孤立地域の確認

【個人で利用する場合】

災害発生前

- ①自宅、通勤通学経路、勤務先・通学先、買い物先など、日ごろ滞在する場所や通過する場所の安全性（危険性）、災害の種類等を確認する。

- ②災害時の避難の必要を考える。

※災害は色々な起こり方をするので、複数のケースへの対応を考えておく。

- ③避難する場合、避難しない場合の両方について、その後の行動を考える。

★自宅に危険がある等、避難する必要がある場合

- ・いつ（どのタイミングで、色々なケースを想定）
- ・どこに（複数の避難所・避難場所）
- ・どうやって（どの道を通る、歩いて行けない場合はどうする？）

※この他、家族との連絡手段や集合場所等を確認しておく

★自宅の方が安全なので、避難しないという場合

- ・孤立の可能性はあるか
- ・周囲に対して、無事を知らせる手段の確認

★備蓄品、備蓄場所、非常用持ち出し品の確認

※おむつ、常備薬等、家族構成によって、必要なものが変わります。

- ④防災関連施設位置図（様式3）に避難先・避難経路・注意事項等を書き込み、「我が家の防災カルテ」を作成する。

災害時

- ①災害発生前に準備しておいた「我が家の防災カルテ」をもとに行動する。
- ②大型台風の接近や豪雨災害の場合の避難行動は、気象状況と家族の体力などを考えて決める。

～地区別防災カルテの使い方～

様式1 地区概況

地区名 豊野

1. 基本情報

人口 9,319人

年齢別人口

区分	人数
0～14歳	200
15～64歳	5,116
65歳以上	3,003

2. 地域の取り組み

3. 防災関連施設

4. 避難所・避難場所

施設名	避難所(区)	避難所(市)	避難所(県)	避難所(国)	避難所(他)
豊野市立豊野小学校	596	2,807	×	○	○
豊野市立豊野公民館	100	100	×	○	○
豊野市立豊野中学校	893	5,321	×	○	○

5. 孤立集落(地震)

地区内の要配慮者等の傾向が把握できます。

地区内の建物の建築年等が把握できます。

地区独自の取り組みを書き込むことができます。

地区内の防災関連施設等が確認できます。

地区内の孤立する可能性のある集落を確認できます。

地区内の避難所等を確認できます。

様式2-1 防災アセスメント調査(地震)

地区名 豊野

2種類の想定地震に対する地区内の震度分布・建物被害予測がわかります。

2種類の想定地震に対する被害予測の数値がわかります。

どのような被害がおおるかがわかります。

地震被害予測結果

震度5弱～震度6強

項目	数値	割合
建物被害	317棟	5.0%
火災被害	687棟	12.1%
全壊	19棟	0.0%
半壊	19棟	0.0%
倒壊	0棟	0.0%
人的被害	21人	0.2%
死者	152人	1.9%
負傷者	65人	0.7%
自力脱出困難者	41人	0.4%
避難者(1日後)	666人	7.1%
避難者(2日後)	2,415人	25.9%
避難者(1週間後)	1,919人	20.6%
避難者(1ヶ月後)	1,770人	19.0%
ライフライン被害	20箇所	
ライフライン被害(全壊)	1,159箇所	

地震被害予測結果

震度5弱～震度6弱

項目	数値	割合
建物被害	8棟	0.1%
火災被害	53棟	1.0%
全壊	0棟	0.0%
半壊	0棟	0.0%
倒壊	0棟	0.0%
人的被害	0人	0.0%
死者	13人	0.1%
負傷者	1人	0.0%
自力脱出困難者	1人	0.0%
避難者(1日後)	39人	0.3%
避難者(2日後)	509人	5.4%
避難者(1週間後)	503人	5.4%
避難者(1ヶ月後)	309人	3.3%
ライフライン被害	4箇所	
ライフライン被害(全壊)	0箇所	

様式2-2 防災アセスメント調査(水害・土砂災害)

地区名 豊野

地区内で土砂災害が起りやすい場所を把握できます。

どのくらいの危険箇所や孤立集落があるか把握できます。

地区内で水害により浸水しやすい場所を把握できます。

地区に係る災害履歴等を書き込むことができます。

地区の防災課題を確認できます。

水害・土砂災害危険箇所

土砂災害警戒区域

土砂災害特別警戒区域

浸水想定区域

孤立集落

防災課題

様式3 防災関連施設位置図

地区名 豊野

地区内の避難所や要支援者の施設等の位置を地図上で確認できます。

凡例

- 避難所
- 避難場所
- 広域避難場所
- 防災関係機関(国・県・市の役所等)
- 公民館
- 病院
- 応急救護所設置施設
- 消防団詰所
- 消防団器具置場
- 防災備蓄倉庫
- 水防倉庫
- 保育所施設(保育園、認定こども園)
- 幼稚園
- その他の要配慮者施設以外
- その他の要配慮者施設
- 防災行政無線
- 水域
- 緊急輸送道路(高速道路)
- 緊急輸送道路(県一次)
- 緊急輸送道路(県二次)
- 緊急輸送道路(市)
- 新幹線
- 鉄道(新幹線以外)

地区別防災カルテ 様式2-1

地区別防災カルテ 様式2-2

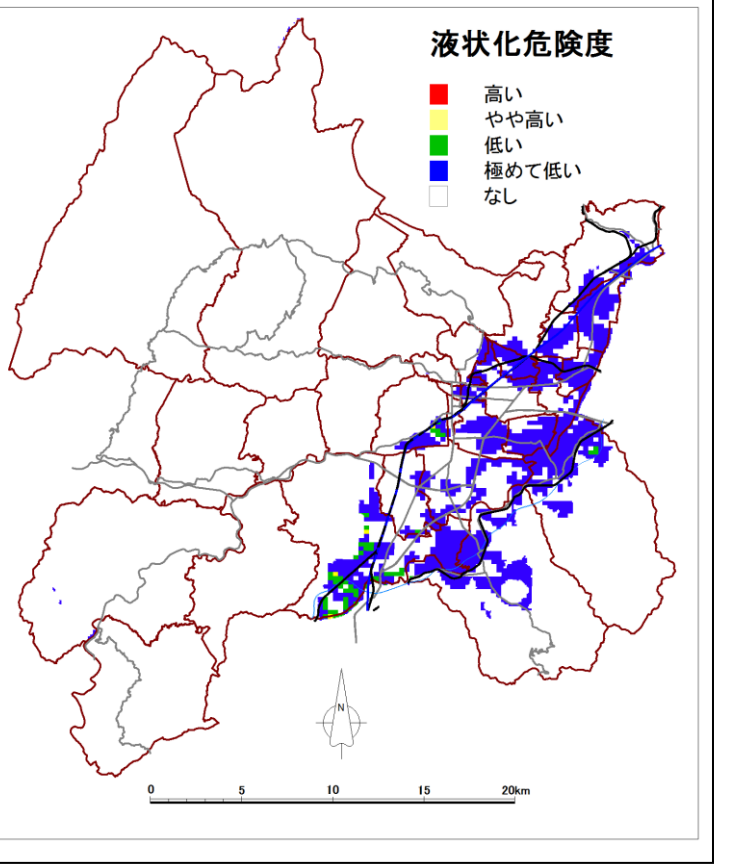
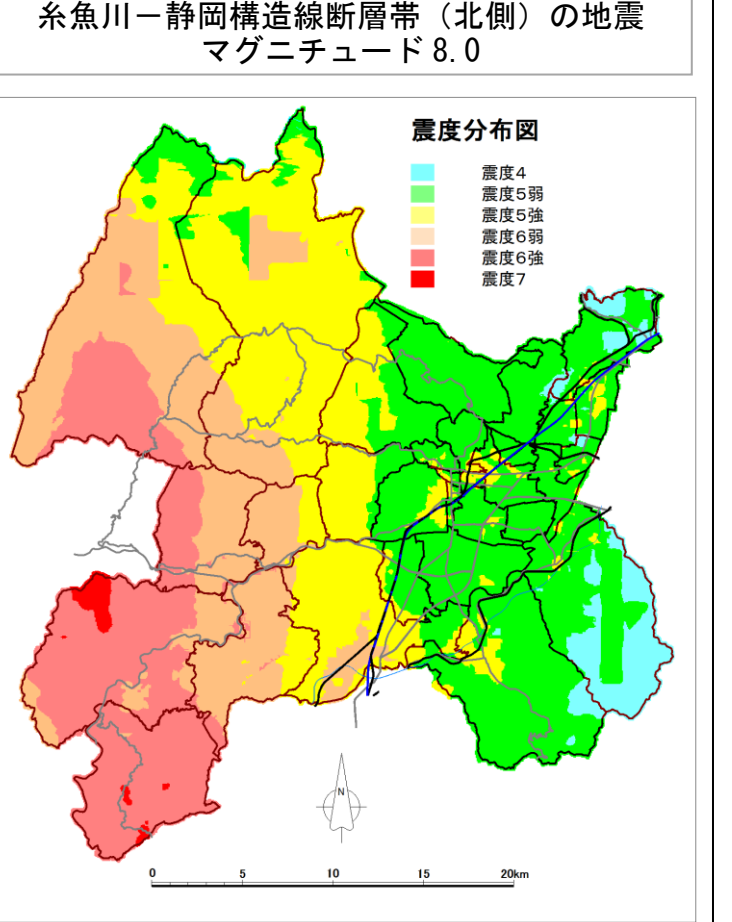
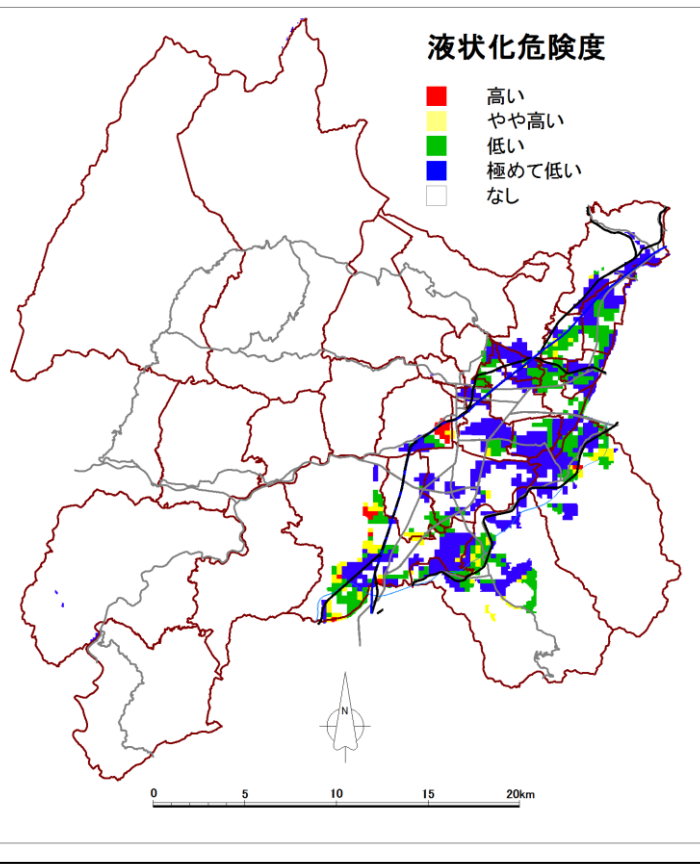
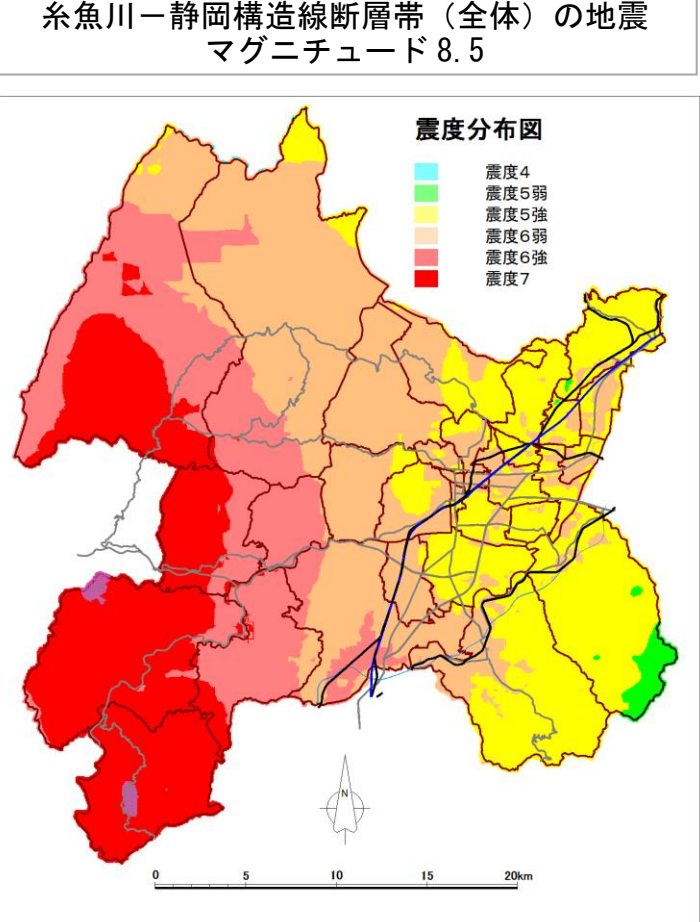
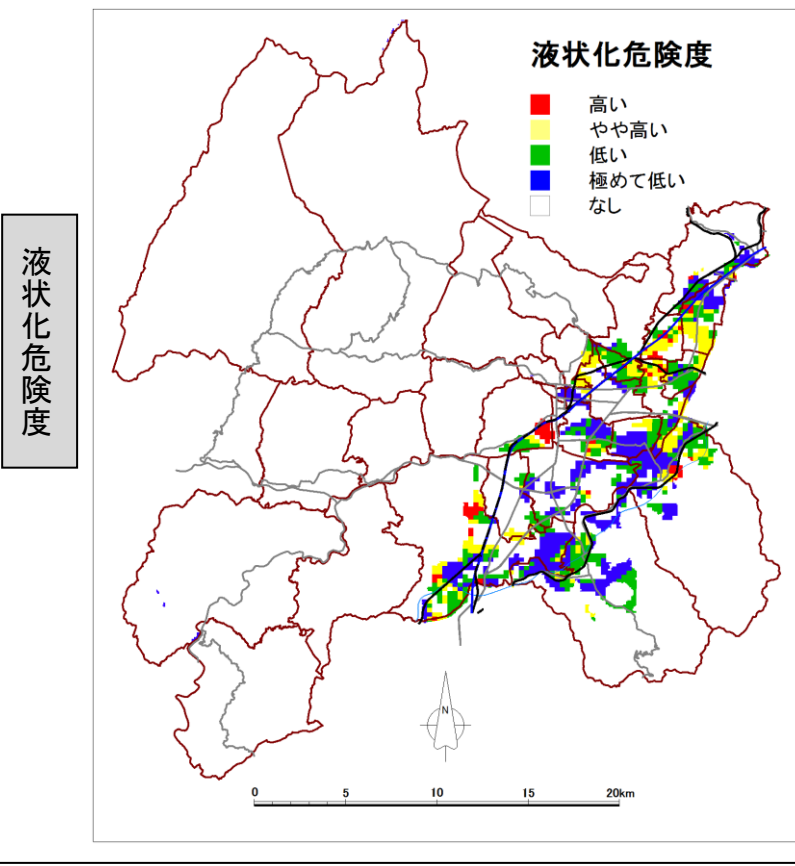
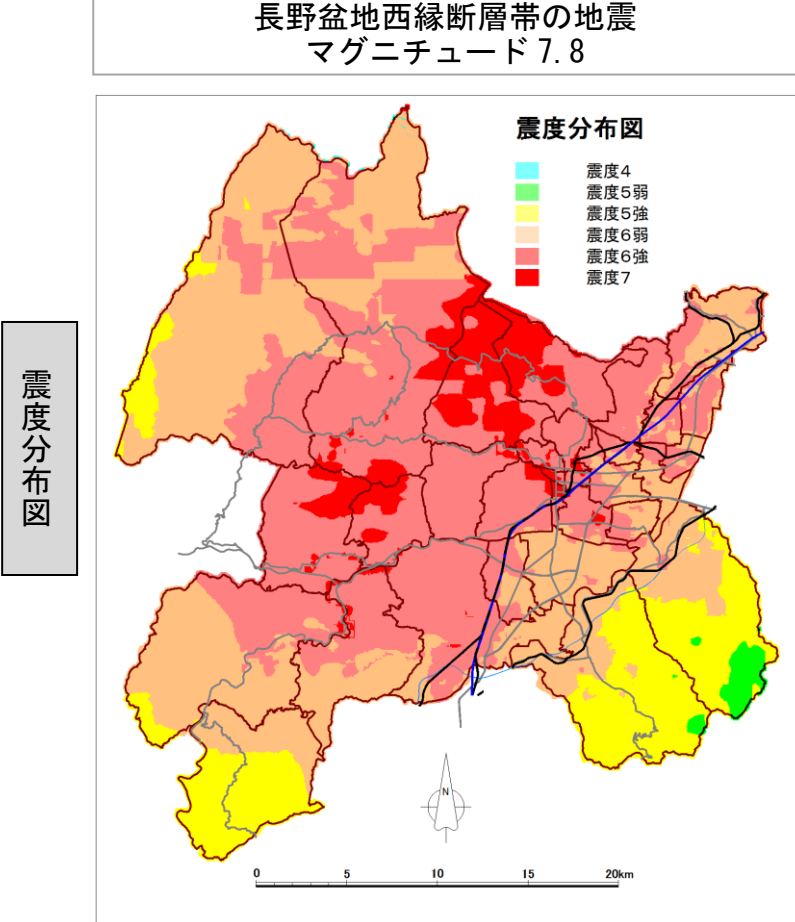
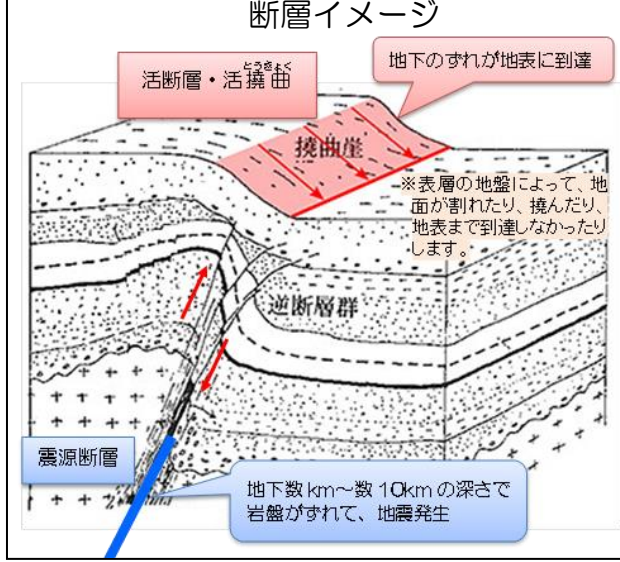
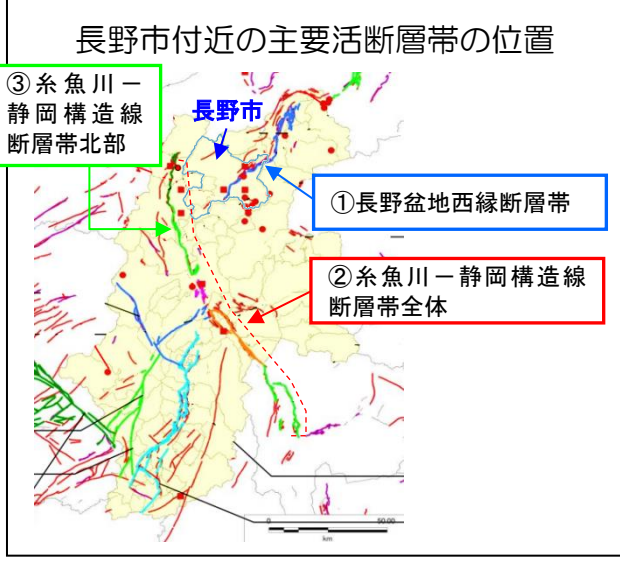
地区別防災カルテ 様式3

長野市の災害 【地震】

長野市に大きな影響をおよぼす地震
 長野市では、1847年の善光寺地震(長野盆地西縁断層帯の活動)や2014年神城断層の地震(糸魚川-静岡構造線断層帯の一部が活動)などによって、大きな被害が発生しています。

右の図は、平成27年3月に長野県が実施した地震被害想定調査を参考に、長野市に大きな影響をおよぼす3つの地震について、震度分布・液状化危険度を示しています。

なお、被害想定調査は、地震の規模や断層の活動範囲など、ある一定の条件を設定して行っています。このため、実際の地震が想定どおりになるとは限りません。



震度分布図

液状化危険度

長野市の災害 【風水害・土砂災害】

大雨に伴う防災気象情報とその流れ

時間経過	警戒レベル	気象庁等の情報	市が発令する避難情報	市民のみなさんがとるべき行動
2～5日前	1	早期注意情報 (警報級の可能性)		災害への心構えを高める
1日前 ～大雨当日	2	大雨注意報 洪水注意報 大雨警報に切り替える可能性が高い注意報		自らの避難行動を確認
	3	大雨警報 洪水警報	氾濫注意情報 氾濫警戒情報	高齢者等避難 災害が発生するおそれがある状況 危険な場所から高齢者等は避難 高齢者や身体の不自由な方等の避難に時間のかかる方は、避難を開始しましょう。 土砂災害警戒区域内にお住まいの方は、避難準備が整い次第、避難を開始しましょう。 その他の方は、避難の準備をしましょう。 正確な情報を入手しましょう。
雨が強まる (数時間前)	4	土砂災害警戒情報 顕著な大雨に関する情報 (線状降水帯)	氾濫危険情報	避難指示 災害が発生するおそれが極めて高い状況 危険な場所から全員避難 土砂災害警戒区域外でも、危険を感じたらすぐに避難してください。 この段階までに避難を完了してください。 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了してください。 まだ避難していない人は、直ちに緊急避難場所や近くの安全な場所へ避難をしましょう。
災害発生	警戒レベル4までに必ず避難を完了！			
	5	大雨特別警報	氾濫発生情報	緊急安全確保 災害が発生または切迫している状況 ※必ず発令されるものではありません。 命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危ない状況。 今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動する。

市民の皆さんの行動

情報を自ら入手することが大切です！

情報収集

気象情報 河川水位情報 避難情報

状況把握 避難準備 避難開始

気象に関する情報の種類

雨量情報
次のような場合に、気象庁から「注意報」「警報」「特別警報」が発表されます。

	大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
	災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	警報よりもはるかに高い危険度
大雨	大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。
洪水	大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	※「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

キキクル(危険度分布)で、お住まいの地域の状況を確認しましょう

気象庁から市区町村単位の警戒レベル相当情報*が出されたら、お住まいの地域の情報が詳細に判る情報「キキクル(危険度分布)」を確認してください。紫色は危険度が高いことを示しています。

※市区町村単位で発表される情報には、大雨特別警報、土砂災害警戒情報、大雨警報などがあります。

紫：崖・渓流の近くは危険 紫：低地は危険 紫：河川沿いは危険

気象情報

気象庁は、災害防止のため、注意を呼びかけたり、警報・注意報の内容を補完するために気象情報を発表します。大きな災害の発生に関係する気象情報には、以下のようなものがあります。

- 土砂災害警戒情報**
大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるように発表される情報です。
- 記録的短時間大雨情報**
大雨警報等が発表されている状況で、数年に一度しか起こらないような記録的な短時間の大雨が観測されたときに発表される情報です。(宮城県では1時間雨量が100mm以上を観測されたときに発表)
- 台風情報**
台風情報は、台風の実況と予報とからなります。台風の実況の内容は、台風の中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速(10分間平均)、最大瞬間風速、暴風域と強風域です。台風の予報の内容は、3日(72時間)先までの各予報時刻の台風の中心位置(予報円)、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域です。

土砂災害の種類と主な前兆

土石流

土石流とは…?
土石流とは、谷や斜面に溜まった土・石・砂などが、大雨による水とともに一気に流れ出す現象。スピードが速く、破壊力も大きいので、広範囲に大きな被害が出ます。

こんな時は注意しましょう！

- 山鳴りがする
- 川の流れが濁り流木が混じりはじめる
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 腐った土の臭いがする

地すべり

地すべりとは…?
地滑りとは、比較的ゆるやかな斜面で地中の粘土層などがゆっくりと動き出す現象。一度に広範囲で発生するので、住宅や道路などに大きな被害が出ます。

こんな時は注意しましょう！

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水がふき出す
- 家や擁壁に亀裂が入る
- 家や擁壁、樹木や電柱が傾く

がけ崩れ

がけ崩れとは…?
がけ崩れとは、地中にしみ込んだ雨水で柔らかくなった土砂が斜面から突然崩れ落ちる現象。一瞬のうちに崩れ落ちるので、逃げ遅れなどで被害が大きくなります。

こんな時は注意しましょう！

- がけに割れ目が見える
- がけから水が湧き出ている
- がけから小石がパラパラと落ちてくる
- がけから木の根が切れる音がする

こんな「がけ」や「よう壁」は特に注意

がけ

- 不安定な岩や土のかたまりがある
- 勾配が30度以上、高さ5m以上
- がけに隣接して林がある
- 斜面に亀裂がある
- 雨が集中して流れるところがある
- わき水が出ている

よう壁

- がけの上に水がたまっている
- よう壁が変形したり、割れ目がある
- 基礎部分が十分に土中に埋まっていない
- 水抜き穴が少ない、または詰まっている
- よう壁の裏側に補強用の石が詰まっていない

河川水位と洪水予報の関係

河川の水位情報は、河川氾濫に対する避難の目安の情報です。水位情報は、テレビのデータ放送やインターネットで確認することができます。

避難指示 **高齢者等避難** **大雨・洪水注意報**

計画水位高 **はん濫危険水位** **避難判断水位**

※はん濫危険水位は、重大な災害が起こるおそれのある水位。

はん濫注意水位 **水防団が出動する水位** **水防団待機水位** **普段の水位**

リードタイム